暁の護衛に転生者を放り込んでみた。

リベりオン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
暁の護衛に転生者を放り込んでみた。

【Ｎコード】
Ｎ１９７５ＢＡ

【作者名】
リベりオン

【あらすじ】
病弱だった少年は２０歳で死んでしまった。そして死んだ少年は神とであった。神は少年を条件付で『暁の護衛』の世界に転生させてくれると言った。少年は条件をのみ転生する。
この作品は、「ご都合主義」「チート」「原作ブレイク」「性転換」などの要素をふくみます。

プロローグ（前書き）

この小説は作者の妄想の産物です。期待はしないでください。

プロローグ

どうも皆さん始めまして、私の名前は　暁（アカツキ）　零（レイ）　と言います。

早速で申し訳ありませんが皆さんに報告します。

私は死にました。

……そんな「コイツなに言ってるんだ。」って目をしないでください。私だって認めたくないかですから……

といっても死んだのは病気なので仕方ないことです。まあ２０年も生きれただけでも感謝しましょう。

「貴方はそれで満足なのですか？」

「ん？だれですか？」

「私は貴方達人間が神と呼ぶものです。」

「神様が私のような者に何のようです？」

「先ほども問いましたが、貴方はそれで満足なのですか？病気のせいで寝たっきりで毎日エロゲーばっかりの毎日で本当に満足だったのですか？」

「まあ寝たっきりだったのはちょっと残念だったかな……それにべつにエロゲーをやったっていいじゃないか。私だって男なんだし性欲だってあるよ。」

「そんな人生で満足でしたか？」

「人生は選べないよ。もし生まれ変われるなら…「もし自由に生まれ変われるとしたら？」……へ？」

「それは輪廻転生ですか？」

「それとはまた違います。貴方にはこの世界とは別の世界に記憶と貴方が望む力を与えて転生させます。」

この展開は……ま、まさか！！

「二次創作とかによくある転生ですか！！？？」

「そうですね。ただし貴方の場合あることをしていただきたいのです。」

「何をしたらいいんですか？」

「貴方にしてほしいことは１つです。ある転生者を殺してほしいのです。」

「転生者を殺す……すみませんが理由を聞かせてもらってもいいですか？」

「理由は簡単です。その転生者は私との約束を破りました。そけだけです。」

「理由はわかりました。もし私がその転生者を殺したらどうなるのですか？」

「あとは自由に過ごしてくれて構いません。」

「わかりました。貴方の条件をのみます。その転生者の情報を教えてください。」

「貴方が殺す転生者の名前は　石田（イシダ）　和彦（カズヒコ）　年齢は２５歳で転生した世界は『暁の護衛』の世界です。彼に与えられた力は身体強化ですね。」

「『暁の護衛』ですか……その転生者はどんな条件で転生したんですか？」

「どんな状況でも人は殺さない。とゆう条件でしたが彼は転生して１５秒でやぶりました。」

「早！！！」

「彼は暁東市の禁止区域を支配しています。時間軸は原作が始まる２５年前です。なので主人公やヒロイン達はまだ生まれていません。」

「なるほど……それで私にはどんな力を与えてくれるんですか？」

「まずは身体能力の強化。それと全ての才能をあたえます。」

「全ての才能？」

「簡単に説明すると何をしても完璧に極めることができます。絵を描こうと思えば初めて書いてもうまく書けたりします。そして少し努力することによりプロの画家になれます。」

「なるほど……他にも何かもらえますか？」

「貴方が望むものを与えましょう。ただしあくまで世界観を無視した能力はむりです。」

「なるほど……それじゃあまず…　ＨＥＬＬＳＩＮＧのウォルターさん並に鋼線を使えるようにしてください。」

「それなら問題は無いですね……他には何かあります？」

「ＤＡＲＫＥＲ　ＴＨＡＮ　ＢＬＡＣＫの黒（ヘイ）の使っている装備を一式を用意してもらえますか？」

「構いませんよ。ただし能力は使えませんからコートには防弾性能はありませんよ。」

「構いません。」

「では貴方が転生したら装備一式と予備を遅らせていただきます。」

「ありがとう。あとはどこか特訓できる場所はありませんか？」

「でしたらこの空間を使いなさい。この空間は外との時間と切り離していますからいくらいても問題ありません。」

「ありがとうございます。」

「この空間は貴方が望めば色々な構造物や的がでてきます。あとは転生するときはこの扉を開けると転生できます。ではこちらが武装一式です。」

「ありがとうございます。ではまたいつかあいましょう。」

「貴方の人生に幸福があらんことを……」

そう言って神様はいなくなった。

とりあえず修行でもはじめますか……

？？？年後……

神様に会ってからどれぐらいの時間がたっただろう……少なくとも１００年はたっただろうか。

私の銅線とワイヤーを扱う技術は完璧と言ってもいいレベルになった。体も鍛え上げ、身体能力ももはや人外だろう。

ナイフの技量はわからないが投擲の技量なら自信がある。最近は１ッ本のナイフで投擲と切撃を同時にだせる技をあみだした。

よくわからないけど正面からナイフを投擲して一瞬で私が相手の頭上に移動して相手に投擲されたナイフを回収し相手の動脈を切り裂くとゆう流れなんだけど……なぜか投げたナイフが刺さった傷もあるし動脈も切っている。

なぜこうなったかを神様に聞いてみると…「貴方の一連の動作があまりにも速すぎるから世界が追いつけていないのです。そのため同じナイフが一時的に２つある状況になるのです。おそらくその技は低級の神ですら殺せるでしょう。」…らしい。

まあ使う場面は無いだろうし特に問題は無いだろう。

あとは銅線を張ってその上を歩いたりすることも出来るようになった。

これは本当に面白かった。神様曰く…「人が空を歩いたり飛んだりしている」…らしい。

とりあえずどちらも人では極めることが出来ないレベルらしい。

これだけの力があれば問題ないだろう。そろそろ私は転生しようと思う。まあ実際はこの空間にも飽きた。

とゆうことで私は扉をあけた。

しかし何もをきなかった。

「へ？」

と自分でもわかるほどの間抜けな声を出した。さして次の瞬間、私の足場が消えた。

「やっぱりおちるんですねーーーーーーーーーーーーーー」

私は落ちていった。

プロローグ（後書き）

感想をお待ちしております

新しい命……そして散る命……（前書き）

一話から濃い話……

新しい命……そして散る命……

私が目を覚ましはじめに飛び込んできたのはボロボロの天井だった。

「知らない天井だ……」

と私は転生者としては言わなければならないことを言ったときあることに気づいた。

声の音程が高いのだ……まるで女の子のような……

私は立ち上がり自分の体を確かめた。服装はＤＡＲＫＥＲ　ＴＨＡＮ　ＢＬＡＣＫの黒（ヘイ）のコートを私サイズまで小さくしてあわせたものでズボンは黒いズボン、ベルトにはワイヤーが仕込まれていた。コートの中を確認すると黒（ヘイ）の愛用しているナイフとそれを収めたホルスター、それと小さいがお山が二つ……

私はそのふくらみにふれてみた。すると自分の体に反応した。とゆうことはこれは私の体の一部で……念のため下も確認したがなくなっていた。

「これは……女になっている。」

と冷静に声に出してみたが内心は混乱してうまく思考がまとまらないでいた。

とりあえず私の体のことは置いておいて（とゆうかただの現実逃避）私は辺りを見渡した。

どこかの部屋なのだろうが天井や壁はボロボロで色々なガラクタやコンクリの破片が散乱している。などと分析しているとまったくこの部屋にはまったく似合わないバックをみつけた。

「中身はなんだ？」

私はバックのチャックを開けて中身を確認した。中にはＤＡＲＫＥＲ　ＴＨＡＮ　ＢＬＡＣＫの黒（ヘイ）のと同じ仮面が数枚と予備のナイフが数本、あとは予備のコートと着替えが数着と銅線を巻いたリールが５つ、ワイヤーの予備、後はクレジットカードが１枚に財布、あと手鏡と手紙が入っていた。

「これは神様が言っていた装備一式か……」

私はまず手鏡に手をのばした。自分の姿を確認したいからだ。

私は自分の手に持った鏡の中を覗き込んだ。

鏡の中には美少女がいた。髪の毛は黒く長い、目は赤く顔立ちは１０歳くらいだが間違いなく美少女だった。

「これが私か……前世ではあまりにも普通すぎる顔だったからな……とゆうかやっぱり女なのか……」

まあいまさらどうすることも出来ないので仕方なく私は手紙を確認することにした。

「えっと……「貴方がコレを呼んでいるとゆうことは無事に転生できたとゆうことでしょう。」って全然無事じゃないけどね。まあいですけど……えっと続きは……「貴方が今いるのは暁東市の禁止区域の中で特別禁止区域、通称特区と呼ばれているところにあるアパートの一室です。ちなみにそこは原作では今から5年後に朝霧（アサギリ）夫婦が使う部屋です。原作では須藤（スドウ）が使っていたとされていますが今は使われていませんのでだいじょうぶです。」…へーここがそうだったんですね。まあそれは今はいいです。…「状況説明はここまでにしておきます。次は貴方のターゲットである　石田（イシダ）　和彦（カズヒコ）　について説明します。まず彼は禁止区域をほとんど支配しています。ただし地下は支配しておらずいまだにらみ合いを続けている状態です。ちなみに五十嵐（イガラシ）は既に地下で『組織』の基盤をつくりあげています。」なるほど……「あと石田（イシダ）　和彦（カズヒコ）の戦闘能力は朝霧（アサギリ）　海斗（カイト）　並み

です。」……海斗(カイト)並か……ならあまり問題は無いな。……「ちなみにクレジットカードには大金を入れています。暗証番号はこの手紙の裏に書いてあります。では貴方の人生に幸福であることを祈ってます。」……なるほどね……」

とりあえず状況はわかった。まずは周りの地形でも調べにいくか……

私は念のためバックを部屋に隠して仮面を付けて外にでた。

数分後……

私は男達に囲まれていた。

男A「よー坊主、いい服を着てんじゃねーか」

男B「とゆうかその仮面は何だ？バッカジャネーノ」

私を取り囲むように男達は立っている。人数は３０人ほどだろうか。

とりあえずこいつらを半殺しにして　石田（イシダ）　和彦（カズヒコ）の場所を言わせるか……

男A「シカトしてんじゃねーぞゴラァァ！！」

そういいながら私の前の男が殴りかかってきた。

（あまりにも遅すぎるな……）

私は男のパンチを掴んでそのまま投げ飛ばした。

投げ飛ばされた男は廃墟の壁に頭から突っ込みグチャとゆう音を上げて地面に落ちた。頭はつぶれ壁には血と脳漿がこびりついている。

（コレが人殺しか……たいしたことは無いな。）

男B「テメー、よくも安藤（アンドウ）を！！」

そう言ってさっきの男の横に立っていた男が殴りかかってきた。そしてそれを合図としたのか周りの男達も殴りかかってきた。

（2人ぐらい生きていたら問題ないか。）

私は静かにナイフを抜いた。

お知らせ

虐殺で残虐なシーンのため

音声でお楽しみください。

「ギャアアアアアアアアアアアーーーーーー」

「腕がーーー俺の腕がぁぁぁぁぁぁぁぁー

ーーー」

「大原！！テメーよくも大原をやｒ…グギャー」

「相手は一人だ囲んで一気に行くぞーーーーー」

「「「「「「「「「「おう」」」」」」」」」」

「突撃ーーーーーーーーーーーーー！！！！」

「うおー…ブシャーー（首から血が吹き出る音）」

「な！何が起きたのだ！………グベギュ……」

「首が一瞬で吹き飛んだだと……グビャ……」

「逃げ……逃げないと殺さｒ………ウギャーー」

「ば、化け物だ………ブビャーーー……………」

「誰か仲間を連れてｋ……ブベルバーーー……」

「た、助け……………………ブチャ……………」

お知らせ

映像が回復します。

大変ご迷惑をおかけしました

私は襲ってきた男達の中からリーダ的ポジションにいると思われる2人を半殺し状態にして他のやつらは物言わぬ肉片にかえてやった。そして今はこの2人から情報を聞き出している最中である。

「お前達は　石田（イシダ）　和彦（カズヒコ）　の居場所を知っているのか？嘘を言ったら……わかるな。」

私は前世で得意だった声真似を使いドスの効いた声を出して2人に聞いた。

片方は頷き、もう片方は首を横に振った。

私は首を横に振った方の喉をナイフで切り裂いた。切り裂かれた男は血を噴出して絶命する。

「この男のようになりたくなかったら全て話せ。」

そして男は話し出した。石田（イシダ）　和彦（カズヒコ）　のアジトの場所、その組織構成などを……

そして私は男は話終わるとその首をナイフで切り裂いた。

これで　石田（イシダ）　和彦（カズヒコ）　を殺す算段がついた。今夜にでも仕掛けるか……

私は自分の部屋に戻った。

新しい命……そして散る命……（後書き）

感想をお待ちしております。

市内散策……（前書き）

今回は平和な日常……

市内散策……

どうも　暁（アカツキ）　零（レイ）　です。私は今自分の部屋で　石田（イシダ）　和彦（カズヒコ）　を殺すプランを立てています。

まあプランと言っても夜になったら正面から堂々と侵入するんですけどね。

まあかなり警備が厳重だしそれならいっそのこと正面から突撃した方が早いんですよね。

まあ私の力なら簡単なんでしょうけどね。

さて……神様の条件はどうにかなりそうだから次は自分の今後について考えようか。

とりあえずまずは　朝霧（アサギリ）　百合（ユリ）　の死を回避する事ですね。

朝霧（アサギリ）夫妻が禁止区域に来たら須藤（スドウ）より早く接触してこの部屋を与えたらいいでしょう。

まあ確実な方法は須藤（スドウ）を殺せば早いんだですが、そうしてしまうと警察に須藤（スドウ）が捕まらないので警察側に８月２３日の計画が伝わらな

い可能性が出てきますし地下の『組織』と敵対するのはリスクが高いです。まあ須藤（スドウ）の殺害は本当の切り札にしましょう。

次は私自身の事です。

私の身長は１２５ｃｍで歳は１０歳前後だと思います。顔は……自分で言うのアレですがかなりの美少女です。

もちろん性別は女ですね。まあ前世が男だったので違和感がありますがこればかりは慣れるしかありませんね。

いっそのこと女の子として生きて恋愛でもしてみるのもアリかもしれません……すみません。やっぱり恥ずかしいです。／／

とりあえずこの禁止区域では女とゆうことで狙われたりするので性別を偽る事にしましょう。私は声を自由に変えられますしね。

あとは仮面を着けたら問題はないでしょう。

とりあえずこんなところでしょうか。あとは臨機応変に対応していくしかないでしょう。

そう言えばそろそろお昼ですね。禁止区域ではまともな食事は難しいでしょうから表側に出て見るのもいいかも知れません。服なら問題ないでしょうしお金なら神様が用意してくれたモノがあります。それに町を見ておくのもいいですしね。

私は夜まで表側の町を散策するために準備をして部屋を出た。

暁東市　駅前……

（まずは銀行にいきますか……）

表側に出てきた私はまず銀行を探していた。神様にもらったお金が一体どれぐらいの額なのか調べるためだ。

銀行はすぐに見つかり私はＡＴＮを利用するため銀行に入った。

銀行に入ったとき警備員に凄い睨まれた。やっぱりこの服装は怪しいのだろうか？まあお金を確認したら服装を買いに行くか……

などと思いながらＡＴＮを操作してカードの残額を調べると……

０が多いな……一体いくらあるんだ？……９千兆もあるよ！！

神様は私に大金をくれた。しかもとんでもな額の……

とりあえず私は１００万ほど口座から下ろして財布の中に入れた。

これだけあれば足りるだろう。

私は銀行を出て洋服店に向かった。

洋服店内……

「いざ来てみたものはいいけどどんな服を買えばいいんだろ……」

私は銀行を出た後近くにあった洋服店に入った。しかし、前世では病弱だった私は病院から支給された服しか来たことがなく、服を買うなんて経験は無かったのだ。

「とりあえず無難な服を選ぶ事にしますか……」

とりあえず私服用に黒い色のロングスカートを1着とそれにあわせて白い服を1着を購入して洋服店を出た。

「まあこんな感じでいいかな……しかしスカートってかなりアレだな……」

とりあえず服は買えたし後は表側に家が欲しいところだけど戸籍とか必要だろうし……大体私ってまだ10歳前後の子供だしね……どうしょう……

まずはやっぱり戸籍が必要ですね……どっかでお金で買えないでしょうか……

などと考えていると……

「お嬢ちゃん。こんなところで何をしているんだい？」

私はスーツを着た男に呼び止められていた。

「この先は高等区だからあまりちかづかないほうがいいよ。」

「わかりました。」

と言って私は来た道を引き返した。

（あそこが高等区か……今はちかずかない方がいいだろう。）

その後、町を散策し近くにあったファミレスで昼食をとり、再び町を散策し、夕方まで時間をつぶした。

私は禁止区域に戻る途中にコンビニにより夕食を購入して禁止区域に戻った。

余談だが暁東市の物価はかなり高かった。

市内散策……（後書き）

感想をお待ちしております。

神様に頼まれたお仕事……（前書き）

今回は人がたくさん死んだりします。

神様に頼まれたお仕事……

私は特区にある自分の部屋に戻ってきた。

既に日は落ちており部屋は月明かりに照らされていた。

私は先ほどコンビニで買った夕食を食べて買ってこの後のことを考えた。

この後私は　石田（イシダ）　和彦（カズヒコ）　を殺しにいくつもりでいる。まあ実際、神様に頼まれたことを早めに片付けたいだけなのだが……

石田（イシダ）　和彦（カズヒコ）は特区の中にある15階建てのビルを根城にしているらしく警備も相当なものらしい。

私としては長距離からの狙撃や出歩いているときに暗殺するのが一番楽なのだが、石田（イシダ）　和彦（カズヒコ）　は用心深い性格らしくほとんど部屋からでないらしい。

そのため私はまずビルの屋上から潜入して　石田（イシダ）　和彦（カズヒコ）がいると思

われる9階へ移動して発見しだい石田（イシダ）　和彦（カズヒコ）を殺す。

まあ石田（イシダ）　和彦（カズヒコ）の強さはそれほど強くないだろうし私なら英霊が出てこない限り負けはしないだろう……

と食事を終えて私は自分の装備のチェックをした。

銅線は問題ないな……ナイフは予備にもう一本持っていくか……ワイヤーも問題ないし仮面も大丈夫。

私は自分の装備の状態に満足して部屋を出た。

特別禁止区域　廃墟ビル……

私はビルの近くまでやってきた。道中見張りのようなやつらがいたが出来るだけ音を立てずに始末した。

（さて……それじゃあまず屋上に向かうか……）

私は辺りに銅線を張り巡らして銅線を足場にしてジャンプし上って

いく。第三者から見たら無限ジャンプしているように見えるだろう。

私は屋上にたどり着くと屋上にいた見張り達が何かを言おうとした。しかし私は見張り達が何か言う前に彼らの首を銅線で切り裂いた。

私は回りに誰もいないのを確認して、先ほど張り巡らした銅線を回収してビルの中に入った。

そして現在は１１階なのだが少し手間取っていた。どうやらここに来る途中に殺った連中のことがばれたらしい。どうやら定時連絡することになっていたようだ。そのせいで警備が厳重になり見つからずに行くことが困難になった。

まあ実際正面から戦っても余裕で勝てるだろうけど石田（イシダ）　和彦（カズヒコ）に逃げられる可能性がでてくるのだ。

もし石田（イシダ）　和彦（カズヒコ）　を逃がせばまためんどくさい……といっても進入がばれた以上、悠長に考えている時間はない。

（強行突破するか……）

そう決断すると後は迅速に行動するだけだった。

私は手早く廊下を移動して目に入ったやつらを殺しながら進んでいく。

（しかし、このビルの階段は何で離れたところにあるんだよ）

このビルの階段は全部で４箇所あるのだがそのうち１つだけしかとうれず他の階段はふさがれているのだ。しかもその階ごとにとうれる階段が別になっていてどれがあたりなのか探すだけでも面倒なのだ。

男Ｆ「いたぞこっちだ！！」

（見つかったか……）

男が叫ぶと周りから男達が現れるが私は走るスピードを落とさずにナイフを構えて男達に突っ込む。

男達の武器は鉄パイプやコンクリの欠片だが特に恐れる武器は見当たらない。私は一気に間合いをつめて男達の首を切り裂く、そして、そのまま走り去る。

そして、同じようなことが５，６回ほどあったが私は特に被害なく

９階にたどり着いた。

私は敵を倒しながら９階の廊下を走っているとかなり目立つ扉を見つけた。私はその扉を慎重にあけて室内に入った。

中は廃墟とは思えないような装飾がされており部屋には机とソファー、それにベッドが置かれていた。

そしてベッドの中には２０歳後半ぐらいの男と１８歳くらいの女が眠っていた。

（……色々と言いたいことがあるがコイツが石田（イシダ）　和彦（カズヒコ）か……）

私はベッドにちかずき石田（イシダ）　和彦（カズヒコ）にナイフを突き刺した。

しかし、私が突き刺したナイフは石田（イシダ）　和彦（カズヒコ）が隣で寝ていた女を盾にすることで防がれた。

「なっ！」

さすがの私も驚いてしまいとっさにナイフを引き抜いて距離をとる。ナイフを引き抜かれた女は驚愕の表情のままベッドに倒れて絶命す

る。

そして、石田（イシダ）　和彦（カズヒコ）　は「よっこいしょ」と言いながらベッドから出てこっちを向いて言った。

「オリ主で最強の俺を殺そうとするとは……お前はバカなのか？」

（私としてはお前の方がバカだろう）

と思ったがそれは口に出さずに心の中で思った。

「石田（イシダ）　和彦（カズヒコ）だな。」

私は声真似を使いドスの効いた声を出して聞いた。

「いかにも！俺こそオリ主で最強の石田（イシダ）　和彦（カズヒコ）だ」

「神様の命により貴様の命をもらう。」

「神だと……なるほど貴様も転生者か。」

「答える必要は……ない」

私はナイフを石田（イシダ）　和彦（カズヒコ）に向けて投擲した。

そして、一瞬で石田（イシダ）　和彦（カズヒコ）の頭上に移動して、石田（イシダ）　和彦（カズヒコ）に向けて投擲したナイフを回収して動脈を切り裂いた。

「な……」

石田（イシダ）　和彦（カズヒコ）はいったい何が起きたのかわからない表情をして胸を押さえている。

彼の胸にはナイフが刺さったあとが残っており首の動脈からも血が噴出していた。

そして、石田（イシダ）　和彦（カズヒコ）はそのまま倒れて絶命した。

「これで一応おしまいか……」

と口にしたとき部屋の扉がひらかれた。

そして扉から数名の男達が入ってくる。

「……あんたがこれをやったのか？」

先頭に立っている男が私に問いかけてきたので私は「ああ」と返事した。

「となると次の頭はあんただ。よろしく頼むぜ。新たな王。」

そう言って男は膝をついて頭を下げた。そして周りの者達もおなじように頭をさげる。

そして私は……

「へ？」

状況がわからず間抜けな声をあげるのだった。

神様に頼まれたお仕事……（後書き）

感想をおまちしております。

後日談……（前書き）

今回はかなり短いです。

後日談……

「今日も平和ですね……」

と私は自分の部屋で表側で買ってきたお茶を飲んで和んだりしています。

「アレからゆっくりと出来る時間があまり無かったですしね……」

アレとはもちろん石田（イシダ）　和彦（カズヒコ）を殺した事などだか、実際、殺した後の方がめんどくさかった。

石田（イシダ）　和彦（カズヒコ）を殺した後、部屋の中に入ってきた連中は石田（イシダ）　和彦（カズヒコ）の部下だった。

そして、私は彼等に組織のリーダーになって欲しいと頼まれた。

何でもあの組織は強いものがリーダーになるらしく石田（イシダ）　和彦（カズヒコ）を殺した私が自動的にリーダーにされた。

何人かは組織を抜けたそうだがそれでも地下の『組織』を除けば最大勢力のリーダーである。私は当然のごとく辞退した。

私はリーダーってゆう器じゃないし、何よりめんどくさいのである。

しかし、彼等はあきらめなかった。あの後、禁止区域を普通に歩いてると彼等が現れて土下座でお願いしてきたのだ。

私も敵意を出してちかずいてくるのでは無いためむげに追い返すことは出来ずにいた。

そして、仕方なく、私は彼等のリーダーになることを承諾した。

あとはリーダーとしての顔合わせと組織についての説明。あとは今後の方針などを決め、やっと落ち着いたので私は今、ゆっくりとお茶をのんでいるのである。

ちなみに今、私はこの間、表側で買った服を着ている。あの黒いコートを着ていると、組織のリーダーに間違われる可能性があるのだ。

まあ実際は女だってばれたら色々とまずいので正体を隠しておきたいのである。

だから世間では、組織のリーダーである私と禁止区域に住む普通の女の子の私とはまったく別人と認識されている。

「しかし、こんなことになるとはね……」

と私はお茶を飲みながらため息をつくのだった。

後日談……（後書き）

感想をお待ちしております。

朝霧夫妻登場……（前書き）

今回は時間が跳びます。

朝霧夫妻登場……

私が組織のリーダーになって五年の月日がたった。

私の体も成長して今は１５歳くらいになり身長も伸びて体も色々と大きくなった。

表向きは禁止区域に住む普通の女の子で裏では禁止区域を束ねる組織のリーダーである。

ちなみにこの５年間で私の正体を知っているものは誰一人としていない。正体に気づいたやつもいたがそいつらは殺して口封じした。

実際、正体がばれると私が生き抜きとして行動できる時間がなくなってしまうし、何より素顔が有名になると面倒なのである。

ああ、それと組織のリーダーとして地下の『組織』と会合を開いたときがあった。そのとき私は相馬（そうま）さん（普通の女の子の時は年上はさんずけ（一部例外あり））に会った。

実際、かなり若かったし、まだ独り身だった。出来たら彼の妻も助けてあげたいと思った。

話を戻すが……地下の『組織』と私達の組織は不戦の条約を結んだ。

末端の個人的な争いはかまわないが組織同士の戦闘は無しにしようとゆう内容だ。

まあ私としては地下の『組織』と揉め事を起こす気は無かったのでちょうどよかった。

さて……そろそろ禁止区域に朝霧夫妻が来る時期である。

巨大な組織のリーダーになってしまった以上、正体を隠して接触するのにもいささか問題がある。

「とりあえず探してみるか。」

私は朝霧夫妻を探すため部屋をでた。

数分後……

実際、見つかればいいな～　と思って探してみていたんだけど……

「まさか簡単に見つかるなんて……」

私から少し離れたところに朝霧夫妻はいた。どうやら男達に襲われているらしい。雅樹(マサキ)さんが　百合(ユリ)　さんと思われる人物を守りながら戦ってますね。しかし、雅樹(マサキ)さんは強いですね……でも百合(ユリ)さんを守りながら戦うのは大変双ですね。

（とりあえず助けに入りますか……）

私は雅樹(マサキ)さんを囲んでいる男達に向かって走り出した。

雅樹(マサキ)　視点……

俺は今、男達に囲まれていた。この男達の目的は百合（ユリ）の体だろう。

男達の技量はそれほど高くないが百合（ユリ）を守りながら戦うには流石に数が多すぎる。

そのうえ、男達は俺を殺す気で攻撃してくるが俺は相手を傷つける事に躊躇してした。

男A「うりゃゃゃゃゃゃぁぁぁぁぁぁ！！」

と男が鉄パイプを振りかぶっていた。俺が避ければ百合（ユリ）にあたってしまう！

俺は痛みを覚悟した。

しかし痛みはいつまでたってもこなかった。

鉄パイプを持った男は振りかぶった鉄パイプを誰かに抑えられていた。

鉄パイプを抑えていたのは……1人の女の子だった。

主人公　視点……

（間一髪かな……）

私は振り下ろされそうになっていた鉄パイプを掴んでそう思った。

とりあえず私は掴んでいる鉄パイプを持った男の横っ腹に蹴りを入れて男を気絶させて鉄パイプを奪い取る。

男B「何だテメーは！！」

といいながら男は殴りかかってきた。私は男の攻撃を避けて鉄パイプで男の腹に痛い一撃を決める。男は胃液を吐いてその場に倒れた。

男達は私が一瞬で2人を倒したことにより一瞬だけ動きが止まった。しかし、その一瞬が命取りとなった。

雅樹(マサキ)さんはその一瞬のをついて近くの男達を殴って気絶させる。そして、私も近くにいた連中を鉄パイプで殴って気絶させた。

あとは、簡単だった。数で優勢だった。男達は雅樹(マサキ)さんと私に次々と倒されてゆき、すぐに…「覚えていろよ!!」と言って逃げ出した。

「ふぅ〜」

私は一息ついて持っていた鉄パイプを捨てた。そして……

「すまない助かった。」

と雅樹(マサキ)さんに声をかけられた。

「いえいえ、こっちにも色々とたくらみがありますし。」

「でも、貴女のおかげで助かったわ。ありがとうね。」

と百合(ユリ)さんと思われる人物に声をかけられた。

「とりあえず立ち話もなんですから私の家にいきませんか？すぐ近くですし……」

2人が頷いたのを確認して私は2人を案内しながら部屋に戻った。

朝霧夫妻登場……（後書き）

感想をお待ちしております。

朝霧……（前書き）

キャラ崩壊……

朝霧……

私は朝霧(アサギリ)夫妻を連れて部屋に戻ってきた。

「まあ汚いところですが上がってください。」

「……失礼する。」

と雅樹(マサキ)さんが先に部屋に入り、その後ろに百合(ユリ)さんがくっついて入ってきた。

私には2人に座布団を渡して表側で買ってきたお茶を用意して渡した。

「さて……私は零(レイ)っていいます。」

と私は2人の前に座りながら言った。

「朝霧(アサギリ)　雅樹(マサキ)だ。」

「朝霧(アサギリ)　百合(ユリ)です。先程はありがとうございます。」

「いえいえ。ところで何で―こっち側（禁止区域）に？貴方たちは表側の、それに百合(ユリ)さんはいいところの出でしょ。」

そう私が言うと2人とも驚いた。そして、雅樹(マサキ)さんは臨戦態勢をとった。

（とゆうか2人とも……その態度は自ら認めているようなものだよ。）

「どうしてそう思うんですか？」

と百合(ユリ)さんが言ってきた。雅樹(マサキ)さんは何も言わずに私を睨んでいる。

「直感ですかね……百合(ユリ)さんには何か普通の人とは違う気配を感じたんですよ。」

さすがに原作知識とは言えないので適当に答えた。

すると百合(ユリ)さんは少し考える仕草をした後、雅樹(マサキ)さんに話かけた。

「雅樹(マサキ)、彼女なら大丈夫だと思う…「しかし、百合(ユリ)！」……雅樹(マサキ)。」

百合(ユリ)さんにそう言われた雅樹(マサキ)さんは臨戦態勢を解除してくれた。

「ごめんなさいね。雅樹(マサキ)は元ボディーガードだからちょっと疑い深くて……」

「ボディーガードですか、道理で強いわけですね。」

「お前もなかなかの腕だったぞ。」

「ありがとうございます。」

そう言って私は用意したお茶を一口飲んで一息ついた。そして……

「さて……ここからがが本題です。」

と私が言うと2人の纏う空気が変わった。

「私が貴方たちを助けた理由は、雅樹(マサキ)さんがほしいからです。（戦力的な意味で。）」

と私が言うと百合(ユリ)さんが……

「だ、だだだ、駄目です！雅樹(マサキ)は私のモノです。」

と顔を真っ赤にして言った。

「ええっと…百合(ユリ)さん。私が雅樹(マサキ)さんを欲しいって言ったのは戦力として欲しいって言うことで、百合(ユリ)さんが考えた事と違うと思いますよ。」

と私が百合(ユリ)さんに説明する。雅樹(マサキ)は意味がわかっていたので、首を縦にふっている。

そして百合(ユリ)さんは……

「～～～～～～！！！／／」

顔を真っ赤にして悶絶してた。

数分後

百合(ユリ)さんが復活してから私は2人が禁止区域に来るまでの経緯を聞いていた。

内容事態は原作と同じだった。ただたまに百合(ユリ)さんのノロケ話になったりしていたが……

「それで2人は今後、どうするつもりですか？ここ（禁止区域）の生活もかなり大変ですよ。今日みたいに襲われる何て日常茶飯事ですよ。」

「それは……」

雅樹(マサキ)さんが小さい声で答えてくる。百合(ユリ)さんは何も言わずに暗い表情をしている。

「（まるで私が悪役みたいですね。）それでどうします？いくあてが無いなら私が雇ってあげましょうか？」

そう私が言うと2人は驚いたようだ。

「そうですね……報酬は3食と寝床、でどうですか？」

「なんでそこまでしてくれる？見ず知らずの俺達のために。」

「さっきも言いましたが私は雅樹（マサキ）さんの力が欲しいんですよ。ここは禁止区域です。基本、誰も信じられません。しかし、あなた達は表側から来た。なら―ここ（禁止区域）の連中よりは信用できます。それに強いですし。どうですか？」

そう私が言うと雅樹（マサキ）さんは考え始めた。考えてる途中、百合（ユリ）さんをちらちらと見ている。百合（ユリ）さんは何も言わない。おそらく雅樹（マサキ）さんが決めた事に従うつもりなのだろう。

そして、雅樹（マサキ）さんが口を開いた。

「わかった。これから色々とよろしく頼む。」

「ええ、こちらこそよろしくおねがいしますね。」

こうして私は朝霧(アサギリ)夫妻を仲間にした。

余談だが私は朝霧(アサギリ)夫妻に今まで使っていた部屋を明け渡し。その隣の部屋に移った。そして、朝霧(アサギリ)夫妻がきてから3日に一回、隣が騒がしくなり、翌日はなぜか百合(ユリ)さんがとても元気で雅樹(マサキ)さんがなぜか元気がなくなっていた。

朝霧……（後書き）

どうもリベリオンです。今日は少しアンケートをとりたいと思いあとがきに書かせていただきました。

アンケート内容はこの作品のヒロイン（ヒーロー）についてです。以下の中からお選びください。（複数指名可能。　ハーレム指名可能。）

？　二階堂　麗香

？　二階堂　彩

？　朝霧　海斗

？　倉屋敷　妙

？　神崎　萌

？　ツキ

？　南条　薫

？　宮川　清美

？　柊　朱美

？　舞
？　杏子
？　宮川　尊徳
？　詩音
？　龍
？　中里　亮　（アキラ）
？　相馬　楓
？　南条　武志
？　佐竹　明敏
？　ノーヒロイン（ヒーロー）
？　その他

となっています。どうかご協力お願いします。

海斗生誕……（前書き）

今回は短い……

海斗生誕……

朝霧(アサギリ)夫妻と出会って3年の月日が経過した。私の体は1年前からまったく成長しなくなってしまった。どうやら柏(ハク)と同じ病気のようだ。

まあ体の成長は止まってしまったためいくら食べても太らないし、筋トレをサボっても筋力は衰えないとゆうチート使用になってしまったこの体……まあ胸も成長しないから小さいままなのだけど……

っと、どうも最近、体に精神が引っ張られている感じがしますね。注意しないといけませんね。

さて、私のことはコレくらいにして私の周りについて少し話しておこう。

まずは私がリーダーをしている組織について話そう。

まず私の正体は誰にもばれていない、そして、特に問題なく組織を束ねてる事に成功した。一応、地下の『組織』とも同盟？みたいなことをしてお互い不感症を貫いている。

ああそれと相馬(ソウマ)さんが結婚したらしい。まあ結婚って言っても世間でおこなわれる結婚とは違いただお互いが同意しただけで禁止区域では結婚したという。ただし結婚したからってどうとゆうことはない。ただ名前が変わるだけである。まあ心境の問題なんだろ。

まあ実際、この前、組織同士の会合の際、相馬(ソウマ)さんにノロケ話を聞かされただけなんだな……

とりあえず組織の話はこんなところだろう、次は朝霧(アサギリ)夫妻の話をしよう。

雅樹(マサキ)さんは最近では特区でだいぶ名前が売れてきた。最初のころはまだ相手を傷つけることに躊躇していたが、1年ほど前に百合(ユリ)さんを襲おうとした相手を殺してから色々と吹っ切れたらしい。今では特区で朝霧(アサギリ)夫妻にケンカを吹っかけようとするバカはほとんどいない。そして、その朝霧(アサギリ)夫妻に守られてる私にケンカを吹っかけてくる連中もいなくなった。

まあ私としては正体がばれるほうがめんどくさいのでこの方が楽なのであるが……

そうそう、朝霧(アサギリ)と言えばそろそろ百合(ユリ)さんの子供が生まれるそうで

す。私は2人に名前を決めてくれと言われたので『海斗(カイト)』ってゆう名前を付けました。

実際、原作どうりの名前ですからね～　特に考える必要はありませんでした。

実際、太郎(タロウ)って名前を付けようと思いましたが謎の電波（作者）に阻まれて言えませんでした。

とまあ冗談はコレくらいにしてとりあえず海斗(カイト)が生まれてから数年は用心しないといけないな。

原作ではたしか百合(ユリ)さんが死ねのは海斗(カイト)が赤ん坊のときのはずだ。今のところ須藤(スドウ)は現れていないがどこかで狙っているかも知れないし用心したほうがいいなか。

と、考えをまとめていると隣の部屋が騒がしくなってきた。

（うまれたのかな？）

そう思った瞬間、子供の泣き声が聞こえてきた。

私は部屋を出て隣の部屋に向かった。

新しく生まれた命を祝福するために……

海斗生誕……（後書き）

どうもリベリオンです。今回もアンケートを募集しております。

アンケート内容はこの作品のヒロイン（ヒーロー）についてです。以下の中からお選びください。（複数指名可能。　ハーレム指名可能。）

	票
？　二階堂　麗香	2
？　二階堂　彩	2
？　朝霧　海斗	2
？　倉屋敷　妙	0
？　神崎　萌	0
？　ツキ	0
？　南条　薫	1
？　宮川　清美	0
？　柊　朱美	0
？　舞	0

？　杏子　0
？　宮川　尊徳　1
？　詩音　0
？　龍　0
？　中里　亮（アキラ）　0
？　相馬　楓　0
？　南条　武志　1
？　佐竹　明敏　0
？　ノーヒロイン（ヒーロー）　0
？　その他　0

となっております。　まだまだ募集しているためよろしくお願いします。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n1975ba/

暁の護衛に転生者を放り込んでみた。

2012年1月10日22時45分発行